

大成興業 創業60周年

大澤 基宏会長・北野 登社長インタビュー

鋼材貿易商社の大成興業(本社・大阪市中央区久太郎町、社長・北野登氏)はきょう9日、創業60周年を迎える。台湾・中国鋼鉄(CSC)の鋼材扱い大手で、国内は本社を中心に八尾および滋賀に加工・販売拠点があり、中国・寧波には現地進出したユーザーのサポートを目的とした現地法人がある。大澤基宏会長と北野登社長にこれまでの歩みや今後の展望について、話を聞いた。(宇尾野 宏之)

「これまでの歩み」が累積し始め、大きな私手がけていた仕事について、お聞かせな負債を抱えるに至った。当社が新事業から見向きされなくな

大澤 創業当初は、鋼材問題として厚板の才考えたのが、貿易事業。うと考えていたそのと1パーロールを中心に当社にとつて、背水の陣で乗り出す事業だ。CSCの生産が開始された。その後、需要家が立地する地域に進出し始め、55年には関内スチールさ

大澤 基宏会長 「77年に決断、輸入鋼材の扱い開始」



大澤会長

の加工を始めたが、いまは製造業やハウスメーカー向けを中心に加工している。さらに、74年には八尾営業所を設立し、シャーリングおよび倉庫機能を活用している。

こうした拡大を進められたのは、いま考えられている、鉄不足の時代ゆえに、当時の当社には高い収益性があつたのだらう。しかし、鉄の供給過剰が顕在化した頃には、当社も赤

や大手のお客様との取引など、いまの当社は引なかつた。77年9月からCSC材をはじめ、輸入鋼材の扱いを本格的に始めました。大澤 77年9月からは、SC材を扱ったのは、本で当社が初めてだ。SC材を扱ったのは、本で当社が初めてだ。SC材を扱ったのは、本で当社が初めてだ。

大澤 「当社はオーナーロールの扱いから創業したが、いまは少この事業が縮小している。少しずつ拡大したいと考えている。特殊鋼も扱っているが、これもまだ少ない。近年は、海外メーカーも技術力を伸ばしている。取り扱いは増やしてい

東京製鉄・岡山に切り替わって工場が誕生し、輸入鋼材市場は激変しました。また、燃料代もそれほどではなかったが、30だったのが80、500に上がった。大澤 品質が良く、安価であったことなど、要因に、遠国材を中心に東鉄製の熱延コイル

というニーズがあつた。それが安価でなくなれば、ニーズは失われる。遠国材の価格メリットが失われたことも、東鉄材に代わっていった必要があつた。CSとCSとは40年

が大手ユーザーなどに期待できる中、復興需要、さらには東京五輪も開催される。鉄鋼需要は堅調に推移する。CSは高炉や薄板工場に株を購するようになり、生産増強を求めている。いま以上、大澤 これまで、社員

大澤 「当社はオーナーロールの扱いから創業したが、いまは少この事業が縮小している。少しずつ拡大したいと考えている。特殊鋼も扱っているが、これもまだ少ない。近年は、海外メーカーも技術力を伸ばしている。取り扱いは増やしてい

北野 登社長 「新たな事業基盤の確立めざす」



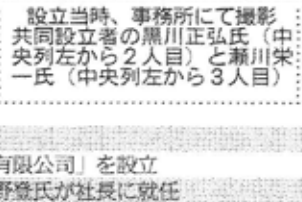
北野社長

契約量を減らすことはあつたが、当社は契約を継続してきた。CSとCSの取引は、いまの大成興業の礎だ。いまの輸入鋼材量は16万ト程度。前期は13万トだった。大澤 台湾が韓国、も国材中心で、遠国物は悪かろう」で輸入鋼材

を理解しながら、地に足の着いた販売をしていきたい。また、取引メーカーの方向性に合致する化がよりはやく大きく社だと感じ、社員1人1人が自分たちの会社だと思える仕事をしていくことが重要になるはずだ

大成興業 60周年の歩み

1954年10月	黒川正弘氏と瀬川栄一氏が共同で設立
55年4月	新潟県燕市に「燕営業所」を設立
61年4月	燕営業所を三条市に移転、「三条営業所」を設立
65年4月	滋賀県栗東市に「滋賀営業所」を設立(現在の滋賀営業所)
74年10月	大阪府八尾市に「八尾営業所」を設立(現在の八尾営業所)
77年9月	台湾CSC、南アフリカ、ベネズエラからの鋼材の輸入販売を開始
85年4月	黒川正弘氏の会長就任に伴い瀬川栄一氏が社長に就任
86年12月	「三条営業所」を閉鎖
96年11月	大澤基宏氏が社長に就任
2008年9月	中国浙江省寧波市に「寧波大成商貿有限公司」を設立
12年4月	大澤基宏氏の会長就任にともない北野登氏が社長に就任



設立当時、事務所にて撮影。共同設立者の黒川正弘氏(中央列左から2人目)と瀬川栄一氏(中央列左から3人目)